

〔投稿〕

明治期国語速記に借用された 英語略字について

キーワード：明治期、速記術、略語、英語、翻訳

Albeker András Zsigmond

(有邊歸留・杏桃來春／アルベケル・アンドラーシ・ジグモンド)

京都大學・中京學院大學 非常勤講師

筆者はハンガリー・ブダペスト出身。幕末、明治期を中心に日本語研究。

「日本の速記」二〇一四年十二月号に「近代語資料としての速記」を寄稿。

一 はじめに

国語速記における略字の現在知られている最古使用例は『怪談牡丹燈籠』（一八八四）表紙裏掲載の「筆記文体」に見える「頗る」であろう。また、最古の略字集として清沢与十の『傍聴筆記新法独学』（一八八四）の「(イロハ) 別け畧符」があり、これに約八四〇種の略字が収録されている。しかし、国語速記法の創始者、田鎖（源）綱紀は初期の頃略字を使っていたのか疑問である。若林珣蔵は『若翁自伝』でこのように述べている（注一）。

「規定の六ヶ月間勉強したが、唯速記の仮名文字を教へるばかりで、略字も少しはあつたが、碌々役に立たない。」

一体どのような略字を使用したのでしょうか。武部良明が左の様に述べている（注二）。

「第一回講習会終了時には、いまだ略字らしきものがなかつた。田鎖は、グラハム式の「it」を「夫」、[Knowledge]を「知識」と読むような直訳的略字を考えたが、あまり実用価値がなかつた。」

即ち田鎖は英語略字を借用し、それに日本語を当てていたということが窺える。

しかし、この「あまり実用価値がなかつた」という英語略字がその後廃棄されたのか定かではない。

本稿では、英語略字はどの程度、また、いつまで使用されたかという

問題について報告する。

二 田鎖式の略字

日本傍聴筆記法講習会が始まってから三年後に田鎖式の解説書『源綱紀氏日本傍聴筆記法 全』（一八八五）と『源綱紀氏改良新法 ことばの写真法 一名筆記学階梯』（一八八五）が出版された。

二冊ともに略字一覧も掲載されており、品詞別に一三七種の略字（略語）が収録されているが、両書の間には幾つかの異同がある。例えば、『日本傍聴筆記法』に「知識」「用」「ことばの写真法」に「筆記学会」「何」等の略字が収録されていない。略字一覧を見ると、バキヤ「勉強」（田鎖・勉強・勉励）、サ十カ「推測」（田鎖に見えない）の様、日本語を基にして作成されたものもあるが、読み方・意味が日本語から

は推測出来ないと思われるものも見受けられる。Graham（一八五八・一八七九）の略語リストと比較してみると、字形と意味は類似しているものが幾つか見出される。（稿末表①を参照）

英語略字が全体の五分の一で、その多くは代名詞に集中している。また、「恰も」と「候」の丸は大きさが異なるが、Graham では同じ大きさになっている。

「great」の略字は G+r から成り立っているが、r を表す勾は田鎖・丸山で小円になっている。この表①で纏めた略字は Graham から借用だと考えておる。

しかし、この他に Graham の略字一覧では見られないが、その構造から考えて英語に基づいているものも幾つかある。その中に Graham の略法と無関係の様なものもあるため、田鎖等は日本語の単語を一旦英

語に訳してそれから略字を考案したと考えておる。（表②を参照）

B+n と K は「始」と「能」の略語であるが、その意味から考えると begin と can から作成されたと思われる。この B+n と K は Graham にも収録されているが、前者は been、後者は kingdom、common・come の略語であり、begin と can に対して全く別の略法を使っている (Gen、K+n)。よって、「始」「能」の略字を田鎖が考案したと考えられる。

「長」の略字は L+n からなっているが、母音符号が加えられた形では Graham にも見えるので、最終的に long に基づいているのである。「新聞」の略語は N+s であるが、これは news に由来するのではないかと思われる。（注三）。

「未」は N+y からなっているが、Graham では N は no・not、Y は

yet の略語として使われている為、not と yet の合字であろう。

「筆記学会」の略字は Graham から借用した「phonographic」と S の合字で、「Phonographic Society」を表していると考えられる。

「実際・実地」の略字は Par の合字であるが、これは Graham (一八五八) の Reporting sign-words の説明に見える practical の略法と同じであるため、借用と考察できる。

以上の考察から田鎖は Graham の略字を借用しただけではなく、自ら英語の略字も考察して日本語に当てたと論じることができるとする。

三 英語略字の使用状況

明治期の速記教授書を紐解くと英語略字が田鎖・丸山以外の書籍にも

見受けられる。研究の現段階では次の速記者が挙げられる。

片桐和吉(一八八五)、小島周二(一八八五)、森本大八郎・岸上操(一八八五)、金山翠溪・志田鳳陽(一八八六)、森本大八郎・横山義之助(一八八八)、丹羽滝男(一八八九・一九〇七)、森本大八郎(一八九三)、矢野由次郎(一九〇二)、熊崎健一郎(一九〇六・一九〇七)、伊藤浪吉(一九〇八)。

特に一八八五年・一八八六年版の教授書が多いが、明治期末まで英語略字が使われていた。ここで一番多い、約五種類の英語略字を使用しているのが田鎖門下生の小島周二である。しかしこれでも略字の総数の約六分の一に過ぎない。また、田鎖・丸山が収録していない略字も採用しているが、そのような略字が他の教授書にも見える。(表③を参照)

四 おわりに

前述の様に、一八八五年から二〇世紀初頭まで英語略字の使用が見られる。

しかし、一体何故英語略字を借用したのか。初期の頃、略字作成の試行錯誤が繰り返されたなか、既製の略字を借用した方が手間不要であったと思われるが、学習する側にとつて覚えづらい所があつたのではないだろうか。例えば、「知識」の略字は Graham の場合 n + G からなっているのに対し、若林は「知」を基にして作成した(注四)。後者の「知」の方が「チシキ」と結びつけやすく、効率的である。しかし、略字の研究が進んで、速記の経験も豊かになると、英語略字が日本語の略字にとって代わる様になった。ただ、二〇世紀初頭まで残った英語略字を

見ると、「為す」「夫」「恰も」「以て」と言った略字が簡単な符号であるため、一部の速記者の間に定着したという結果であった。

資料

- Graham, Andrew J. (一八五八) *The Hand-Book of Standard or American Phonography in Five Parts*. New York.
- Graham, Andrew J. (一八七九) *The Synopsis of Standard Phonography. New and improved edition.*
- 伊藤浪吉 (一九〇八) 『新式簡明速記学教授書 全』帝国速記学会
- 片桐和吉 (一八八五) 『ことばの写真法独稽古 筆記学階梯統編』秩山堂
- 金山翠溪・志田鳳陽 (一八八六) 『新編大日本傍聴筆記法与便 全』東京明進学校
- 清沢与十 (一八八四) 『傍聴筆記新法独学』弘文社
- 小島周二 (一八八五) 『日本傍聴筆記法独学全書』堀 治作

熊崎健一郎 (一九〇六) 『新式簡明 速記学教授書』帝国速記学会

熊崎健一郎 (一九〇七) 『最新速記術』博文館

丹羽滝男 (一八八九) 『独学自在日本速記法』雙々館

丹羽瀧男 (一九〇七) 『速成実験応用速記法』同文館

丸山平次郎 (一八八五) 『源綱紀氏改良新法』ことばの写真法一名筆記学階梯』玉林堂

源綱紀先生口述、丸山平次郎編纂 (一八八五) 『源綱紀氏日本傍聴筆記法 全』沢屋蘇吉

森本大八郎・岸上操 (一八八五) 『筆記学協会 傍聴筆記法』博聞社

森本大八郎、横山義之助編輯 (一八八八) 『速記術活法 全』文林堂

森本大八郎 (一八九三) 『速記術活法 全』(第三版) 文林堂

矢野由次郎 (一九〇二) 『実験速記術』共成社

参考文献

武部良明 (一九四二) 『日本速記方式発達史』日本書房

【注】

(一) 若林珪蔵 (一九二六) 『若翁自伝』若門会、二七頁

引用文においては旧字体を新字体に改めた。

(二) 武部良明 (一九五一) 『国語速記史大要(上)』日本速記協会、四〇頁

(三) 『日本国語大辞典』によると、新聞は news、新聞紙は newspaper の訳語として中国語から借用されたが、前者は固有名詞として多く使用されたため、明治一〇年代に専ら newspaper の意として定着した。

(四) 若林珪蔵 (一八八六) 『速記法要訣』速記法研究会、二七頁

【付記】本稿は平成二八年九月四日に開かれた「第四十回速記科学研究会 速記・言語科学研究会合同研究会」での発表に基づき、席上御意見を頂いた諸賢に

深謝申し上げる。また、貴重な資料を下
 さった兼子次生氏・荒木章氏に厚く御礼
 申し上げます。

表①

Graham 1858-1879	英語略字の意味	田鎖・丸山 1885	略字の意味
	all		總
	already		既
	an and		並
	as		恰
	do		働
	great		大
	how		如何
	immediate-ly		直
	is		候
	it		夫
	its		其
	knowledge		知識
	may		得
	must		必

Graham 1858-1879	英語略字の意味	田鎖・丸山 1885	略字の意味
	nature		自然
	never		決
	new		新キ
	phonographer		筆記者
	phonographic		筆記学
	spirit		精神
	this		是
	though		雖
	to		マデ
	use=yz		用
	what		何
	with		以

表③

Grahamの略字		日本の速記教授書に見える略字					
意味	符号	意味	符号	意味	符号	意味	符号
advantage		小島(1895) 利益					
again		小島(1895) 再び					
by		小島(1895) 横テ、四ツ、二 テ		矢野(1900) 横テ			
first		小島(1895) 最初		丹羽(1899) 最初			
sentences		小島(1895) 証書		森本(1893) 証書			
i		小島(1895) 私		森本(1895) ワシ		森本(1893) 私	
nevertheless		小島(1895) フレドモ		丹羽(1899) フレドモ			
represent		小島(1895) 親ス		金山(1899) 親ス		丹羽(1907) 親(ハ)ス、親(シ)	
tell		森本(1895) 云フ申ス					
very		小島(1895) 甚ク		森本(1893) 甚			
we		小島(1895) 我等		森本(1895) ワシラ		森本(1893) 我々	
which		小島(1895) 何レ		森本(1895)+ ツリ		金山(1899) 何レ	
word		小島(1895) 言葉		片桐(1895) 言葉			
your		小島(1895) 汝		森本(1895) ナンチ			

表②

田鎖・丸山 1885	意味	字源	推測された英 単語
	始	B+n	begin
	能	K	can
	長	L+η	long
	新聞	N+s	news
	未	N+Y	not yet
	筆記学会(丸 山に見えな し)	PHONOGRAPHIC+S	Phonographic Society
	実際・実地	P+r	practical

日本の速記 2016年11月号

発行日 平成28年11月1日
発行人 高柳 郁朗
編集人 保坂 正春
発行所 公益社団法人 日本速記協会
〒102-0083
東京都千代田区麹町4-8-26 ロイクラトン麹町3階
電話 03(3556)9559 F A X 03(6268)9549
Eメール info@sokki.or.jp <http://www.sokki.or.jp/>
印刷所 日本印刷株式会社 〒170-0013
東京都豊島区東池袋4-41-24 東池袋センタービル